

絵画教育研究(その3)

—幼児・児童画の心と基礎デッサン入門—

古賀 隆一

Picture Education Study (Part3) : Psychology of an Infant and the Picture
Painted by a Child and Introduction to Basic Dessin

KOGA Ryuichi

キーワード： 創造教育 発達段階 むり絵の弊害 感性と表現

概要：本論は、絵画教育研究(その2)に引き続き造形表現の教育現場で指導者が直面する幼児・児童画(以下、幼・童画、又就学前は幼児画)の描画心理の受け止めに必要な《感性》を学習する教育研究である。

本学の授業と社会人、高校生を対象とした講演(模擬授業)の実践で得られた研究課題には受け取る側の経験の違いを感じて来た。机上の学習と幼稚園、小学校等教育現場の理想と現実の乖離なのである。幼・童画の指導は、指導する側が子どもの絵画の《心》を受け止める“感性”を磨くことと援助力である。子どもの描く絵を理解する上で、大人が学ぶ絵画学習は、心理、感性の働きの捉え方が深く関わる。基礎デッサンは作画の要素に必要とされる抽象性とも関連する。教育現場の経験から基礎デッサンを通して、幼児造形教育(指導と援助)は絵画を観る(理解する)力をつける学習は必要である。(その1)では、デッサン教育と幼児画教育の関連を中心とし、(その2)ではデッサンの課題と『むり絵』の輪郭線の関係と『むり絵』のもたらす成長期に与える害を明らかにした。デッサンの課題(その3)は「円柱形」の表現をテーマに、立体の捉え方を解説する。『むり絵』が成長期の子どもに与える“むり絵の弊害”は、関連する文献「子どもの絵と大脳のはたらき」から、幼児画の在り方をより明確にする。この課題を本稿では、高校での講演後の感想資料と文献資料で理解を深める。

1. はじめに

本稿は、幼少期の発達段階を理解し、幼・童画教育とりわけ自由画教育が創造教育として感性を育む時期に指導者に必要とされる絵画教育研究統編である。幼児・児童期の造形教育とりわけ絵画教育は、〈発達段階〉と〈指導と援助〉について理解されにくく誤解されやすいと指摘してきた。造形表現の「指導とは、援助とは」、その解釈が問題点である。授業(保育内容指導法・造形表現)や講演会(幼児画の見かた)(子どもの絵と大人の絵)において、感想等のレポートから見えてくるものに今後の教育研究の課題がある。これまで幼少期の発達段階の絵画研究と、指導者に必要な描画の指導法の教育研究を並行して進めてきた。ここでは園田正治『子どもの絵と大脳のはたらき』

「大脳のメカニズム」「大脳を育てる教育」の研究を参考に、子どもの絵のもつ意味を考察する。

2. 研究課題

授業や講演会後に提出される感想には、その後の研究課題が見えてくる。対象となる本学学生や高校生、幼稚園等現場経験の有無で質的な反応の違いから、本年度高等学校で実施した講演後、幼児絵画教育の意味と理解には現場経験から生じる違いがあるので受講生の感想の内容を纏めておく必要を感じた。

そもそも幼・童画の理解とデッサンの基礎教育は、教員養成に必要な指導力を身につけるための感性表現の教育技術である。(その2)に述べたことであるが、周辺の幼稚園の教育現場に『むり

絵』が持ち込まれている。文献研究で幼児期の〈ぬり絵のもたらす害〉として明確に否定されているにもかかわらず、相変わらず無理解な指導者がいる。本学での授業における研究課題、高等学校の出張授業（講演会）等を通して絵画教育研究課題を実践した内容からその理解度と残された課題を主な指導目標とする。授業では保育内容指導法（造形表現）で幼児絵画の発達段階、講演での演題は、「子どもの絵と大人の絵について」である。これまでの指導経験から幼児画・児童画の指導で一番留意すべきことを分かりやすく説明することを心掛けた。講演後、受講した生徒感想文について詳細と文献資料を参考にして研究課題とする。

絵画教育を理解する上で指導者の資質向上の為に必要なことは、まずは絵画技術を身につけることしかない。ここでいう技術とは、単にテクニックに留まらない精神性や感性といった本来人間としての資質なのである。大人の絵と根本的に違う子どもの絵に学ぶ姿勢とは、その感性を磨く習練に他ならない。

3. 課題設定理由

先ず、幼稚園教育要領、保育所保育指針の「表現」から・・・保育所保育指針、における保育の内容、幼稚園教育要領第2章 ねらい及び内容の中で「表現」においては・・・感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。（一部抜粋）このことを踏まえ幼・童画教育に携わる教諭や保育士は「創造性や感性」を育む教育とは何か、幼児期の発達段階に応じた「援助と指導」の意味を考える。幼児画の理解の為に必要な指導者の描画力は創造、創作、感性、感覚を磨く事に他ならない。指導者育成機関では、デッサン学習の描画力（絵画とは何かを知る力）が幼児画を観る目を育て幼児画の「指導と援助」に繋がると考えてきた。尚、絵画教育の弊害である『ぬり絵』が、幼稚園や保育の現場で作業として与えられている事実は、先に述べた教育要領や、保育指針に示す内容に反する行為である。

4. 研究の趣旨

本研究の事例は文章化され客観的な事実に基づいているが、昨今私もこの事例同様の体験をしている。小学校図画工作の授業で、顔の描き方、眼の描き方（具体的な位置関係まで指示する）や幼稚園における「ぬり絵」の実態も参観している。この事例の他、結果主義（作品主義）の横行は制約された時間、場所の課題もあるかも知れないが、そもそも成長期の子どもの発達段階を無視している。図画工作・造形表現にとって大切なことは発想（着想）の過程と制作の過程である。完成の喜びは教育目標と身勝手な考えの方もいるが、日々成長する子どもにとって作っている時間や、手と頭の働きのこそ工作することの価値がある。創造（想像）教育はこの原点に立ち返らない限り、無為な時間を過ごすことになる。

また、幼児造形教育の理論研究の必要性から、幼少期の発達段階における絵画研究と、指導者の描画法の教育研究を同時に進めてきた。本稿では園田正治著『子どもの絵と脳のはたらき』から、脳のメカニズムの研究を課題とした。絵画教育とりわけ自由画に必要な美術に関わる特別な専門性を有しない幼・童画教育に携わる教諭や保育士が学ぶべきことは、幼児の発達段階と心理、幼児画が訴える意味である。幼稚園教育要領の目指すもの、領域「表現」をどうとらえるか。この領域は豊かな感性を育て感じたことや考えたことを表現する意欲を養い、創造性を豊かにする視点を示している。ねらい3項目、内容8項目からなるがここに示された目標を理解するには言葉（豊かな感性を育てる。表現する意欲を養う。創造性を豊かにする。）の持つ意味を造形教育の視点から掘り下げる。子どもの作品研究では、収斂的な結果を求めることを目的とした活動では指導のプロセスも結果も、概ね客観的で明快であり、保育者の指導による極端な差はあまり見られない。これに対して、子どもの造形作品に対する指導や評価は、保育者の力量の差が顕著に表れる場合が多い。特に心象的な表現においては、心の中にあるものを外に表すわけであるから、子ども一人ひとり思っていることや考えていることが、絵や粘土等によって千差万別な形で表れる。行き届いた環境作

りや、充分配慮された温かい動機付けや援助がなされる程この傾向は一層強く、拡散的で各人各様である。

5. 研究内容

これまで講演等で紹介したことのある以下三つの本題に係る事例は、昨今の例と比べても色褪せることはないほど普遍的課題である。小学校の教育実習観察で体験したことや幼稚園に於いても、この内容と大差ない現実を踏まえて更に指導者は学習に取り組む必要性を感じる。

課題の背景にある事例から研究の要点を考えたい。【この稿で、事例③の内容は省略】

事例①・・・現在、幼稚園の園長（女性）の思い出・・・数十年前の体験から、保育内容「表現」第10章から・・・『スズメは何色』・・・「年長の1年間幼稚園に通った。園庭でさんざんあそんだ後のお絵描きの時間のこと、ぬり絵のようなものが配られた。私に配られたのはスズメの絵でした。さて困った。私にはスズメがどんな色をしているかが全く思い出せません。・中略・まわりの友達はせせと塗り始めました。同じスズメの絵の子は茶色のクレヨンを持っていた。そんな色かと思ったが、人真似は嫌いだったのでじっと席に居て何もせずに過ごした。何度か回ってこられた先生は何もしない子に困惑されただろう。」抜粋引用

事例②・・・園田正治著『子どもの絵と脳のはたらき』から・・・「ある保育所を訪ねた時のことだが、私が四歳児の保育室の様子を見ようと思って入り口に立つたとたん、保育母が一枚の絵をぱっと教卓に隠すのを見た。保育後、批評会の席上その絵を出してもらって話題にした。その保育さんは、「牛を見に行った後なので、牛の絵を描かせたかったのに、それは、青と黒のぬたくり的な絵であった為、まずい指導をみられるのがいやで・・・」ということであった。そこで私はこんなことをいった。「あなたは、ぬたくりの絵が恥ずかしいというが、それはちょっとおかしい。子どもは対象の色にかかわらず、それぞれに今ぬりたい色を使い、形も独自の認識をたよりに描いていく。そのため、およそ私たちおとなでは思いつ

かないような表現になってもそれは当たり前で、描きだした時の絵があなたに気に入られなかったとしても、恥ずかしがる事はないじゃありませんか。むしろこの様に思い切った、独自性のある表現が、みられたということは、あなたが平素子どもの自主性を認めている、その良い面がこうした形で現れてきたのではありませんか。」

園の多くの先生が自分の指導目標に子どもを追いこもうとして、予想される青写真に即応させようとする。しかも色や形、ぬり方まで規制してしまう。これでは子どもにとってもっとも大切な個性的主体性は抑圧されてしまい、たくましい活動は出来なくなってしまうだろう。子ども自身が一生懸命になっていればその外見上の出来栄を心配して、とやかくいうことは慎まなければならない。」抜粋引用

事例③・・・2008年東京新聞コラム《コンパス》より『図工の時間』・・・原文は、本年報第1号『子どもの絵画教育研究』P38～P39に全文掲載：参照

幼児絵画の理解は、先ず幼児の発達段階であり、その脳の発達と心の働きである。園田正治『子どもの絵と脳のはたらき』から「脳のメカニズム」によると、「人間の行為はどのような場合でも、たとえ手や脚がしているように見えるものでも実は“心の座”というべき脳の指令にもとづいてなされているのである。もし、この行為を少しでも望ましいものにしようとするれば、脳の構造やその働きを充分に知り、それを有効に活用することが非常に大切なことになる。頭頂・後頭は連合野から送られてきた諸情報を組み合わせ思考する前頭連合野は、個性の座といわれ、子どもによって違った表現活動を生み出す。こどもたちに画一的な表出が見られるのは、保育者としての親や教師の思考の画一性（結果主義や作品主義を指す）による場合が多い。だから画一的で個性のない子どもの思考をたくましく個性的な思考に育てる指導の配慮が必要で教育課題として充分検討しなくてはならない。

脳のメカニズムを究明する重要な教育的課題の提起・・・人間の日々の体験は、脳の記憶野の細胞に痕跡として残り、その痕跡が反復されて度

重なると、一層深められてよりはっきりした“記銘”と称する痕跡となる。この記銘されたものが、必要に応じて再現し想起されるのである。記憶は、色々な学習や体験によって記憶野に刻み込まれた痕跡であるから、現代のように雑多な情報が統一されることなく受身的に、受容されたり、先生や親によって無理に詰め込まれた知識であると、子ども自身の能動的意欲が働いて得たものでないだけに、非常に不安定なかたちの痕跡として刻み込まれているということを承知していなければならない。だからこの様に不安定な記憶の痕跡ではなく、はっきりした記憶痕跡にするにすするために、自発的な努力によって得られる新しい記憶を蓄積するように配慮してやる必要があるのである。

表現活動にとって、最も重要なことは、頭頂・後頭連合野から送られてきた諸情報を組み合わせ思考する前頭連合野は、個性の座といわれ、子どもによって違った表現活動を生み出す。子どもたちに画一的な表出がみられるのは、保育者としての親や教師の思考の画一性による場合が多い。だから画一的で個性のない子どもの思考をたくましく個性的な思考に育てる指導の配慮が必要である。

造形活動と直接関係ないようであるが、実は非常に関係の深い“はなしことば”と脳のメカニズムは、はなしことばの営みもやはり自己の意思の表現活動で、両者には表現形態の相違があるけれど、同質の仕組みを持っている。

“聞く”ということは、相手のことばを聴覚受容器の耳で受け入れ、刺激を聴覚の後言語野（感覚性言語野）で読み取ってその意味を理解することで完結する。この機能は目や手で受容した刺激を頭頂、後頭連合野で受け止めて感覚として意識するのと同様である。後言語野からの情報は、直ちに前頭連合野（運動性言語野）に信号され、ここで思考判断が行われる。ここで思考判断が行われる。そこで、どのようにしゃべればよいかを考えてことばに組み立てる。それが効果器である発生器官（口）の筋肉への指令となって伝えられ、その筋肉の統合的働きによって音声の連鎖を作り上げ、それが言葉となって表現されることにな

る。

この前頭連合野でのことばを作り出す個性的思考と“口”と、造形活動における思考と“手”との関係は全く同質の機能である。この両機能をうまく関連づけて、両者の発育を促すことで非常に重要な可能性が生まれる。この様に脳のメカニズムの究明で重要な教育的課題が提起されている。脳の発達と環境について興味深い事実として、脳を育てる教育では、狼少女（カマラ）の事例（具体的内容は省略）があるが、8歳の発見から約8年間、実に手厚い保育にもかかわらず、ついに完全な人間としての成長をなし得なかったという事実である。その後の人間教育によって、脳を作り変えようとどんなに努力しても、人間の脳にはなり得なかったということである。ジャングル生活から28年ぶりに社会生活に戻った元兵士の適応能力からみえることから考えると、重要なことは幼児期に望ましい人間生活を経験しておけば、すなわち脳のもっとも発育する時期に細胞のからみあいをよくしておけば、それはずっと活かされということである。」（抜粋引用）

以下、講演会の要旨と受講生の感想の報告である。

感想文は、受講者それぞれの視点で感じ取られている様子が理解出来る。各々部分的な視点であるが纏めてみると講演内容（大人の絵と子どもの絵）の要旨（概要）が分かり、全体が網羅されていることに気付いた。従って講演の内容の掲載は要約のみとする。

講演会の要旨

子どもの絵と大人の絵の違いを考える時、脳の発達と働きから完成期（12歳）くらいと考え、青年期の高校生は大人と定義し子ども絵は小学6年生頃までとした。『子どもの絵は教えたり、教えられることもない』子どもの絵画表現は自分で獲得するものであり、子ども自身その力を持っているし、教える・教えられるといった行為は必要なく、子どもの絵は自由な表現でなくてはならない。

子どもの発達段階と絵画では、子どもの絵は手の運動に始まり発達段階に応じた表現で自ら伸ばしていく。言語発達との関連も深く発達段階に応

じた援助が適切に出来るかは大人の課題である。一般に幼児画は、物を見て描くことはなく、経験したことや見た記憶といった概念や観念によるもので、心象表現である。従って「良く見なさい・こう描きなさい」といった指導は幼児画にあってはならない。絵画表現は教えられることはなく自発的活動であって『形』を教える事は、子どもの創造（想像）意欲を無くしてしまうことになる。子どもは発達段階に応じた成長過程が望ましく、無理に表現方法を教え込んだりしてはならない。縦に伸ばす教育は自然に任せ、横に伸ばす教育（指導と援助のうち援助の部分を如何に工夫するか）を考えることが幼児画教育である。文献により明らかなことは『ぬり絵』等で形を教えられた子どもは、自由に絵を描く事ができなくなってしまう。「先生描いて、描けない」という子どものほとんどがこの体験をしてしまっている。『ぬり絵』のように輪郭線の中に色を埋めることは単なる労働に過ぎないし創造（創作）意欲を欠落させてしまう結果になる。小学校3年生になる頃がターニングポイントであり、脳の発達との関係が深いと考えられる。子どもの絵から学ぶとは感じ取ることであり、大人が絵画を学ぶ理由の一つは「感性」を磨くことである。絵画は具象、抽象画を問わず全て心象表現（抽象化）であり、心の眼と表現力を鍛えることに意味がある。

子どもに絵を教える事は不要であるが、その点大人の絵の学習は全く意味が違う。芸術の鑑賞や実技の訓練で基礎を学ぶことは大切な学習方法である。文献によると中世以降の名画のほとんどが25歳をピークとしていいると事を考えると、大脳の完成期以降（12歳代以降）に基礎訓練をすることが望ましいと考えられる。

講演会では基本形（正6面体、球体、円柱形、円錐形）の作例鑑賞と描き方、について解説した。基本形は描写する上で構図を考えたり、画面構成をするうえでもっとも大切な学習である。

＊注【以下、感想文は、56名分本文の抽出である。‘である調’に改める以外出来るだけ忠実に掲載するように心がけた。】（以下、何れも高校生、順不同。）

1) 子どもに絵を教えるはいけない。絵は自分の

気持ちを吐き出す。小学生の時自由に好きなものを描いていた。幼少時、自分の描いた絵を姉に笑われてから、絵をかくのが苦手になった。子どもの絵を見て理解する力をつけたい。・・・
1年女子

2) 絵には感情が入っていることを知ったので、これから近くの子どもの絵を見てみたい。小さい子どもに絵を教えるはいけないことに驚いた。創造、想像、感性の大切なことが分かった。講座の内容を覚えておき、将来子どもを育てる時気を付けたいと思う。・・・1年女子

3) 参考例の子どもの絵は自由にのびのびと描いてあって自然な感じが出ていた。子どもの絵を、大人が見て物の形に当てはめるのは大人のエゴなんだということも分かった。・・・1年女子

4) 子どもに絵の描き方を教えるはいけないということも、私にとって印象深かった。絵を描くことは自分の感情を表現することなので、将来教育する立場になれば、描かれた絵から何を思っとういった気持ちでいるのか分かってあげられる人になりたい。・・・1年女子

5) 幼児の絵には、その心情が表れる等、いろいろなことを学んだ。・・・1年男子

6) 参考例の幼児画を見て妹の描いた絵が分らず、絵を教えようとしたら母に自由に描かせなさいと言われた。その理由が今日やっと分かった。またぬり絵はやらせた方が良くも思っていたが、むしろその逆ということで大変驚いた。子どもについてもっと学びたいと思った。・・・
1年女子

7) 子どもに絵を教えるはいけないと聞いたときどういうことか分からなかったが、話を聞いていく中で分かって来た。子どもに形を教えるのではなく、自由に描く機会を援助しその絵を見る力をつけることである。そのために自分の感性を磨いていきたい。子どもに自由を与えることも大事だと思った。子どもの描く絵にはその子の気持ちや生活環境が表れることも初めて聞いたので、今後絵をみる機会があれば、子どもの想いを考えてみたい。・・・1年女子

8) 私は絵を描くことが苦手なのでこの講座を受講した。子どもには絵の描き方は教えなくていい

- いと聞いた時はびっくりした。絵には、その時の心が表れるということ、自由であるということを知り納得した。小さい子どもには何でも教えなければならないと思っていたが、子どもこそ自由にやらせてあげることが大切だと分かった。今回の講座は知らないことばかりでおもしろかった。大学の授業はおもしろそうである。・・・保育士志望1年女子
- 9) 援助という言葉が印象に残った。援助=絵を描く機会を与える・・・ちょっと驚きを感じた。子どもの絵を見る場合自分は描けなくても、絵を見る力=感性が大切なことが分かった。子どもに「ぬり絵」を与えると自分で自由に絵を描くことが出来なくなることも分かった。・・・1年男子
- 10) 大人の絵は描き方の指導を受けることの意味が分かった。子どもの絵から子どもの気持ち分かることや、子どもに絵の描き方を教えてはいけないことも知った。・・・1年男子
- 11) の絵は抽象的で形が無いことや、何かを描いているように見えるのは大人のエゴであることが解った。ぬり絵など形を教えたり、教師が児童の絵に手を加えたりすることで成長を阻害することも同感した。子どもに絵の描き方を教えないこと意味が分かったので、教えないで成長を見守りたい。・・・1年男子
- 12) 大人の絵のように何かを見て描くのではなく、子どもの絵は、見てかくのではなく、手の運動で始まることや感情の表現みたいなことと思ってもいなかった。子どもの絵は教えず好きなように描かせること等、はじめて知った。描き方などを教えて上手い絵を描かせることが良いのかと思っていた。3原色があればいろんな色が作りだせることも知った。自分の為になる話が聞いて良かった。・・・1年男子
- 13) 子どもの絵を見ていて何を描いているのだろうと考えていた。子どもに絵を教えても良いのではないだろうかと考えていたが、感性や創造性(想像性)は発達しないという話を聞き納得した。また子どもの絵だけでなく美術の歴史も含めてお話を聞いたので興味深い内容も多く自分でも勉強したい。・・・1年男子
- 14) 幼児期の絵を見て自分も描いた記憶がある。頭足人の記憶はない。幼児画は何となく紙に描いているのだと思っていたが、自分の気持ちを絵に表していると聞いて驚いた。これから幼児画を見た時はどんな気持ちで描いたのか考えてみようと思った。大人の絵画では、3原色や3要素等の基礎勉強が必要なことを知った。3原色で理論上の黒が出来ることも初めて知った。・・・1年女子
- 15) 幼児画に上手い下手はないことが分かり関心を持った。絵に苦手意識を持っているので、好きではない。うまく描けないと思っているからだと思う。絵は上手く描くというものでなく、自分の心情を表すもので難しく考えなくて良いことも分かった。幼児画は抽象的に描くもので心の表現をしている。子どもの気持ちの分かる教師を目指したい。・・・1年女子
- 16) 将来希望の一つに支援学校の教師を考えているが、勉強になる話が聞いて良かった。幼児画から心象を読み取ったり把握するのは大変だと思った。子どもの絵は想像力や感性の表現なので大人の絵の上手いとは違うことが分かった。・・・1年女子
- 17) 子どもの絵の実例を見せてもらって分かったことは画用紙いっぱい自分の気持ちを表していることである。意外だったのは絵を描くことの援助等は絵を教えることではなく、絵が描ける環境を作ることだと分かった。絵画表現から子どもの生活(しつけ)や家庭環境が見えてくることも分かった。将来保育士を希望しているので子どもが自由に自分の気持ちを伝える絵が描けるよう援助出来たらいいと思う。・・・1年女子
- 18) 指導と援助、子どもに絵を教えてはいけない。形を教えない。自由でなくてはならない。というのが印象に残った。絵は心の表現である。いここに「ぬりえ」のプレゼントしたことがあったが良くないことだと分かった。美術館に足を運んで感性を磨く必要を感じた。大人の絵は階段を昇る様に、子どもの絵は自由であるように、将来の参考にしたい。・・・1年女子

- 19) 美術に興味はあったが子どもの絵についてはこれまで知る機会が無かったが、子どもの頃に無意識に心の状態を表現していたことに気づかされた。・・・2年男子
- 20) 子どもの絵から心情を読み取れることやぬり絵は子どもに良くないことを知った。小学1、2年の頃ぬり絵をやっていたので、良くないことを知らなくて残念に思う。・・・1年男子
- 21) 子どもの絵は何かを描いているのではなく、自分の気持ち、心を表現していることが分かった。子どもの想いや生活環境も分かることがすごかった。束縛せず自由に描かせることや大人は子どもの絵を見る力をつけることが大切であると思う。ぬり絵は子どもの自由や感性を奪い取っていることを知り、小さい頃やっていたことを思い出し驚きである。・・・1年女子
- 22) 子どもに絵は教えないことの意味が分からなかったが、子どもには形を教えるはいけない。自由に描かせることが大事なこと分かった。またぬり絵が子どもに悪影響を与えることが分かった。子どもの絵は何を描いているか分からないが、それが子どもの心の表現であることや健康的な絵などの意味が分かった。・・・1年女子
- 23) 一番印象に残ったことは「子どもに絵を教えるはいけない」ということ。子どもの絵にはその子の気持ちや感情が表されると思った。ぬり絵はただ塗るだけなので、子どもの想像力や感性が育たないことも学んだ。将来子の親になった時、自由画を描かせたい。一方大人の絵画は、描き方の教育を受けることや、描いて訓練することも学んだ。・・・1年女子
- 24) 私には障害を持っていたところがある。いつも絵を描いているが不思議な絵である。普通の子とは少し違っていたので、興味をもっていた。妹にも講座の内容を伝えたい。この講座を受けて良かった。・・・1年女子
- 25) 子どもに「絵は教えない」[教えることは出来ない]と聞き驚きました。3歳位の子どもの絵は形にならないが、形ではなく創造（想像）すること、感性（表現）だと思う。小さい頃、していたぬり絵は創造力（想像）や感性が身につかないことも知り驚きである。保育士希望なのでこの学びを生かしたい。・・・1年女子
- 26) 省略・・・1年女子
- 27) 始めに子どもの絵を見せて貰ったのですが何かを描いているとしか思っていなかったので何も描いていない、手の運動だと知った。子どもの絵は成長と共に変化していくことも知った。子どもの絵に心理学の関係、子どもの心が表れることはとても面白いと思う。・・・1年女子
- 28) 幼稚園教諭志望なので講演が聞けて良かった。歳の離れた弟の絵が伸び伸び成長していたことが分かった。大人の絵と子どもの絵が根本的なところから異なっていたのを知り驚いた。テーマが無いのに絵を描いていたので成程と思った。これから沢山学びたい。・・・1年女子
- 29) 省略・・・1年男子
- 30) 保育園で割りと自由に描かせてもらっていたと思う。完成を望まれたり作品展に出す絵を描いた覚えもない。子どもに教える事は創造力や伝えようとしていることを無視してしまう事だと思う。ぬり絵が批判されると思っていたのでとても驚いた。・・・2年女子
- 31) 「大人の絵」と「子どもの絵」の教えられるかどうかの違いが分かった。「指導と援助」の言葉がとても印象に残った。子どもの絵は指導でなく援助してあげるその姿勢が大事である事が分かった。作品主義（結果主義）という言葉が印象に残った。型にはまってしまう「ぬり絵」に気をつけようと思う。・・・2年女子
- 32) 子どもには何かを作らせるというよりも自分で考えさせる方が大切だということを知った。指導と援助という言葉が耳に残った。ぬり絵は駄目だということを初めて知って子どもの頃やっていたのを思い出して少し焦った。子どもの絵画は教えられないという考え方を心に留めて忘れないようにしたい。この話を聞いて自分の考え方が一気に変わった様な気がした。・・・2年男子
- 33) この講座で考え方に共感した。子どもには絵を教えるはいけない。ぬり絵は駄目だということも知った。子どもの絵に必要なことは援助す

- ることでありその環境をつくってあげることが一番良いことと知った。・・・2年男子
- 34) 大人絵と子どもの絵のタイトルの興味が興味あり受講した。大人絵は教えられるが子どもの絵は教えられないという意味少し分かった気がする。とても勉強になった。・・・2年男子
- 35) 話を聞いて驚く事ばかりだった。子どもの絵から健康状態やぬり絵をさせないことなど初めて聞いてびっくりした。子どもに自由に絵を描かせるという大切さも分かった。自由に描くということが創造力につながると思った。子どもの絵から伝えたい事を読み取る義務があるという言葉が心に残った。・・・2年男子
- 36) 子どもの絵は自由ではあるが、しっかりとした意味があったのだと分かった。子どもの頃の絵が懐かしい解放感があり心がなごまされると思う。デッサンの意味を知って知識が増えて良かった。作品主義にこだわらないようにしたい。・・・2年男子
- 37) 子どもの頃の絵は表現が自由で懐かしく感じるところがある。子どもの絵と同様「結果」を出すための努力（制作過程）が大事だと思った。・・・2年男子
- 38) 子どもの絵はいつも不思議だなと思っていたがその理由がやっと分かった気がする。これと決まったものを描いていたのではなく、自分の心の中にあるものを伝えようとしていたからこそそのびのびとした絵になるんだと思った。抽象的な子どもの絵に対して具象的な大人の絵（何を描いているか分かる）という印象である。デッサンの作画例球体や正6面体は質が分かるくらい細やかで美しいと思った。この講座で前より興味が湧いてきた。・・・2年女子
- 39) 子どもの絵にはいろいろな要素がふくまれていると感じた。特に絵から健康状態も分かることやぬり絵が子どもの教育に良くないことも分かった。・・・2年男子
- 40) 大人の絵と子どもの絵について初めて知ることがあり勉強になった。・・・2年女子
- 41) 子どもの絵が手の運動から始まる事に納得した。何かに縛られることなく伸び伸びと描くのが良いのだということが分かった。ぬり絵と子どものコンクール参加はさせないようにしたい。・・・2年女子
- 42) 子どもの絵が手の運動に始まる事に納得した。子どもが自由に絵を描き自由な発想をするのは大事だと思う。ぬり絵がダメな理由として形があるものに塗る作業は発想力が無くなってしまいうからだと思う。自分の子どもにはぬり絵はさせず自由に伸び伸び描かせたい。絵が深いものだと分かったし、もっと詳しく学びたい。・・・2年女子
- 43) 子どもの絵画コンクールが良くないことやぬり絵をやらせてはいけないことに驚きました。子どもに指導するのではなく援助、制作の環境を作ることが重要だと分かった。・・・2年男子
- 44) 大人の絵と子どもの絵の違いは教えられるか教えられないかだと分かった。こどもには自由に絵を描かせるのが良いことが分かった。ぬり絵が子どもに形を教えてしまう悪い事だということ聞き少し驚きました。これからの生活に生かしたい。・・・2年女子
- 45) 子どもの絵と大人の絵は私にとって興味深いものだった。大人の絵は教わる事が出来るが子どもの絵は教えられない。私自身小さい時に教わったこともない。・・・2年女子
- 46) 印象的だったことは「ぬり絵」を子どもにさせてはいけないことである。ぬり絵は身近にあるが私は好きではなかった。将来子育てする時は正しい教育をしたい。・・・2年女子
- 47) 初めて知り驚いたこと、共感したことなど色々な事を感じることが出来た。中でも印象に残ったのは「子どもにぬり絵をさせてはいけないこと」と子どもは環境を作ってあげれば自然と育つという言葉である。ぬり絵のことを聞きとても衝撃を受けた。僕は小さい頃良くぬり絵をしていた記憶がある。だから自分は絵が下手なのかなあと感じてしまいました。将来子どもには絶対ぬり絵はさせないようにしたい。絵画の環境作りのことを聞き成程なあと共感してても納得することができた。・・・2年男子
- 48) 幼児画指導において重要なことは指導ではなく援助であること、発達心理と幼児画を学ぶこ

とができた。私が一番驚いたことは子どもにぬり絵をさせてはいけないことである。ぬり絵をすることで自分で形を描けなくなるので教育に良くないことである。将来自分の子どもにぬり絵はさせたくないと思った。・・・2年女子

49) 私は小さい頃絵を描くのが大好きだった。親に教えられたこともなかったが、絵を描く道具を揃えてくれたり自由に絵がかける環境作って貰っていたと思う。今でも絵を描くのは好きだし想像することも大好きである。子どもに絵を教えたり、ぬり絵をさせるのが良くないのが良く分かった。子どもには自由に絵を描かせたい。子どもの絵が何を訴えているのかしっかり理解して感じ取ってあげたいと思う。・・・2年女子

50) 子どもの絵の描き方や、ぬり絵をさせてはいけないことを聞いてびっくりした。色の話はとても興味深く、赤の反対色（補色）の緑との関係でお肉の話も成程と感心しました。・・・2年女子

51) 幼児教育で大切なことは指導と援助であり環境をサポートすることが重要だと分かった。・・・2年男子

52) 幼児画では子どもには教えるのではなく援助が大切なことを知った。子どもの時にぬり絵をさせてしまうと絵が描けなくなることも分かった。自分の子どもにぬり絵はさせないようにしたい。・・・2年男子

53) 自分の子どもには楽しくのびのびと絵を描く楽しさを知って欲しいと思った。・・・2年女子

54) 作品主義（結果主義）はいけないというのは分かる気がする。私の親も無理やりやらせたりはしなかった。子どもの感性を大事にしていくことが大切だと思った。・・・2年女子

55) 大人と子どもの絵の違いについて色々学ぶことができてよかった。記憶にない子どもの頃自由に楽しく絵を描いていたように思う。自分が子どもを育てる立場になったらぬり絵は絶対にさせないようにしようと思う。・・・2年女子

56) 大人の絵との違いとして、子どもの絵は描く行為そのものが目的であることや、無理に何か

を教える事は良くないことが分かった。何かを教えられたただ従うだけでなく自分で考え自分で将来の道を決めていこうと思う。・・・2年男子

紙幅の都合で高等学校の講演後に提出いただいた受講生の感想のみを纏めた。講演内容全体が網羅されていることは前述の通りだが、子どもの教育現場や子育てに携わっていない青年期の反応が窺えて興味深い。このほか本学学生が教育実習、観察実習等で体験したことを含め教育の問題に次の課題が生まれているような気がしてならない。

本稿では（その2）に引き続き、球体から円柱形を描く実習と輪郭描写の比較関連について考察する。「円柱形」の描画法を事例で取り上げるが、特に「楕円のかたち」は目線と視角の理解無しには立体表現は難しい。この例は、線から面で捉える学習として美術教育で取り上げている授業研究である。

（その1、2）で述べた教育研究内容は近代以降の美術の考え方のみならず、中世期に確立した画法や技術の踏襲である。古代ギリシャ、ローマに学んだ中世期の絵画研究は近世、印象派の出現で絵画の本質の研究が完成されたと言って良いと（その2）に述べた。以下重複するが再掲すると、青年期に於ける学習の方法として、形を描く訓練はその考え方に普遍性はあるが、個々人のその後の創造活動の方向や変遷は自由であり、各々発展、展開、考え方も個人の資質によることである。印象派の画家セザンヌ（仏）が言った自然を立方体、球体、円柱、円錐形に置き換えるという考え方（見方）は、画面構成あるいは再構成する上での考え方で、デッサンの入門研究では当然避けて通ることは出来ない。地球上の万物が質、量を持っている以上、絵画は虚像であるが描かれる形は立体的として捉えるべきであり、そこには形を構成する面の存在がある。教育研究では、面の存在をどのように説明し、描く方法の技術をどのように伝えたら良いか、面を描く教育方法（具体的に教育現場で指導してきた内容）をまず示しておきたい。幼児教育に於ける『ぬり絵』『切り絵』『写し絵』や幼児期児童期の『幼児・児童絵画コ

ンクルの問題』については、絵画教育の根幹に触れる重要な問題である。これらの問題点が何処にあるのか既に研究が進んでおり、これまでも文献からその問題点を明らかにしてきた。輪郭描写の研究は『ぬり絵』等とは次元の違いがあるので語るに及ばないが、誤解を招かない説明は今後必要であると考えている。(その2)の球体事例に続いて(その3)として円柱形の実践事例研究を示すことにした。

本学の学生は大学入学までに美術に係る専門的な学習に取り組んだ経験のある学生は少ない。教員免許取得の為に学習を始めるに当たってどのような基礎学習の取り組み方があるかを考えて来た。これまで学生へのアンケートで、実態を把握し教育課題の指導研究も続けている。基礎教育の学習不足と幼少期の体験の中に《発達段階》を無視した押し付けの教育や、「自由画」を学習評価の対象と捉えられた経験を持っていると考えられる事例がある。幼児教育は人を育てることであり、物事の本質を学ぶことが基礎となる。本論実習例の一つとして「円柱形」を取り上げているが、円柱の描写は楕円の理論的裏づけなしには絵画表現は出来ない。また立体感を表現するには考え方に基本技術が必要である。以下、実技教育技術(その3)として基本形の描き方の解説を示す。

実技実践・・・石膏幾何形体「円柱形」表現の教育技術

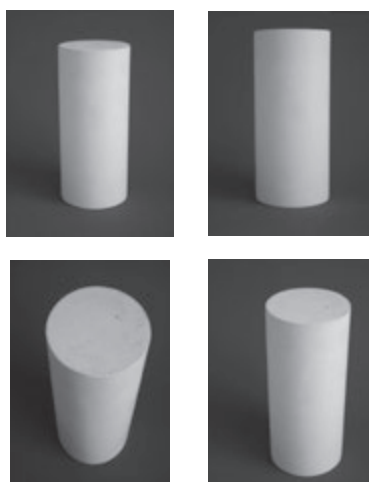
【資料…1】円柱形モチーフ〈石膏モデル〉(光のアンクルと見え方)

形は光の存在無しに見ることは出来ない。描く技術は光と影の関係も避けられないが、描画に於ける明暗は、必ずしも光と影の関係で描くのではなく、〈明るい色と暗い色〉として捉える考え方で臨む姿勢が解り易い。光と影は表面的な視覚の捉え方で量的な捉え方や質的な捉え方が弱くなり表面の変化を追うだけになってしまう。形を捉えることは物の内面やその存在を証明することでもある。デッサンの学習は、感性を磨く学習として考えると一層理解が深まるであろう。つまり形を描くことはただ単に目と手で写すことだけでなく目を通して心の働き(感動・感性)を手に伝え働きかける事に他ならない。従って画面の構図等を

除きカメラのレンズを通して写真を撮ることや漫画やアニメといった説明図とは意を異にする。

【資料…1】「円柱形」の石膏モデル

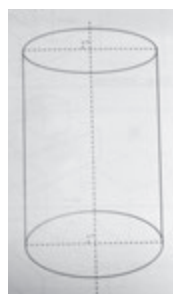
目線の位置角度による見え方の違い。右側光線。



【登臨美術学院案内資料より、図版一部抜粋引用】

【資料…2】「円柱形」の形と構造と構造線及び「球体」の構造線。

円柱は、並行する2面が正円である。この正円の見かけ上の形である楕円を正確に捉える事がポイントである。正円は目の高さによって、様々な楕円になることは、身の回りの対象物、例えば一升瓶の注ぎ口と底などを観察すれば理解出来るだろう。(参考図A) 短軸:楕円の最短径、楕円の長軸と直交する。長軸:楕円の最長径、円柱の中心軸と直交する。(参考図B) 良く使われるモチーフなので楕円の描き方をマスターすることが大切である。

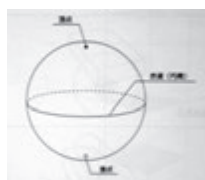


(参考図A)

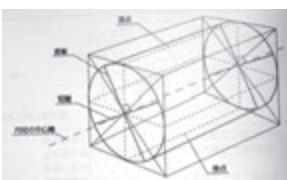
(参考図B)

円柱と球の構造線・・・初心者にはモチーフの表面ばかりを見がちである。かたまりとして意識

し、構造を捉えるための目安となる構造線を引くことが効果的である。球の構造は赤道線、頂点、接点を意識することにより、ボール等のモチーフを描く場合、視点の高さ、台やモチーフとの関係が確認し易くなる。（参考図C）円柱は直立ではなく倒れている場合でも、楕円の長軸は円柱の中心軸と直交するという関係は変わらない。（参考図D）



（参考図C）



（参考図D）

【資料…3】一点透視による円柱の見え方では、円が目の高さによって変化する見かけ上の楕円を図示したもの。目の高さでは、当然一直線になる。（参考図E）参考として楕円の描き方。（参考図F）下図左図を斜めから見て楕円を描く。点Oが図形としての楕円の長径上に無いことと、楕円の先はとがらないように注意すること。（参考図G）



（参考図E）



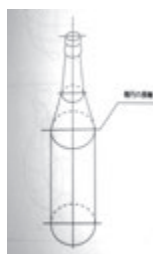
（参考図F）



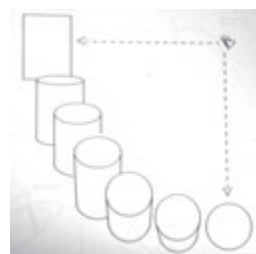
（参考図G）

【資料…6】円と楕円

円形をもつ対象の円は、楕円に変化して描かれる。この様な対象を描く場合、楕円の中心軸と長軸を直角にすることが基本となる。これを守らないと回るべき車輪も回転しないし、瓶も斜めに立ってしまう。（参考図H）視点の高さと楕円の変化：楕円の頂軸の長さは一定だが、単軸が変化する。（参考図J）



（参考図H）



（参考図J）

【資料…4】作品例：

- ・線描の横方向の表現は、すべて膨らみの異なる楕円を使うが、楕円の曲線は明るい暗いといった調子（美術用語）に合わせて強弱（筆圧の加減）も必要となる。



（鉛筆画）

（鉛筆画）

資料により理解出来ることは、『円柱形』は輪郭を描くと（その1）で取り上げた例と同様輪郭線でも、概念として立体を感じる事が出来る。その点は（その2）で取り上げた球体と違っている。しかし輪郭線のみでは立体感を表現する事は出来ない。輪郭線で捉える形は、あくまで図形の説明に過ぎない。ぬり絵の如く輪郭線の中を塗り込んでしまうことなど、は素描の基本的な考え方はあり得ない。線描写という概念は、立体の面を捉える補助に相当するという最低限の理解は必要だろう。

※本稿においてデッサン教育と『ぬり絵の弊害』について、（その2）でも述べたように『ぬり絵』の事例を示さないのは、幼児教育に不要であり、特に成長期の子どもに悪影響を与える点でも意味はない。尚、年配者や成人の《ぬり絵あそび》は、代理満足と単なる作業（労働）としての位置付けから、美術教育（特に幼児教育）、創造教育とは無関係である。

6. 要約

本稿は、幼少期の発達段階を理解し、幼・童画教育とりわけ自由画教育が創造教育として感性を育む時期の指導者に必要とされる人間教育研究統編とした。幼児・児童期の造形教育とりわけ絵画教育には、一部無理解な指導者に誤解されている。特に幼児期の発達段階の絵画の意味と理解、〈指導と援助〉に対して課題を見つめてきた。園田正治著「子どもの絵と脳のはたらき」から、脳のメカニズム、脳を育てる教育について子どもの絵画を考える理論的裏付けと基礎資料として一部を取り上げた。

これまで子どもの絵と大人の絵をテーマに講演してきたが、社会人と高校生や学生それぞれの反応の違いを実感することがあった。これから学ぶ若い人との違いに指導のヒントがある。本稿では研究内容に高校生の感想文を要約した。幼児期の絵画指導には発達段階の理解と幼児画をどのように読み取るのか。その力のつけ方や「文科省の指導と援助」の援助の部分の考え方について述べてきた。幼児絵画の読み取る力をつける為にどのような学習方法があるのかを実際の作例をもとに解説した。感想の要約でみえたもののなかで「幼児に絵を教えない」「ぬり絵の弊害」を知った。といった内容が多いのに改めて気づかされた。この感想内容が講演の内容をすべて網羅しているので「である調」に代え出来るだけ原文のままの掲載とした。

本年報の第1号で取り上げた幼稚園教諭の質問、感想にあるように教育現場の経験には不安が増幅する傾向がある。机上の学習と現実のギャップであろう。私は原点に返ることを薦めるのだが、現実の保育では個々の生活環境や成育状況等と保育者一人当たりの人数を考えると無理からぬことと言わねばならない。しかし教育は昨日今日の問題ではない。子どもにとっては、将来がある問題である。講演会に参加した高校生の理解が机上の理解に留まらず実践に役に立ってのものであって欲しいと願う。

本稿では(その2)に引き続きデッサン(円柱形をテーマ)の実習を実技教育研究課題とした。大人(指導者)が子どもの絵を見る力は、その発

達の理解と創作教育に対する意欲を必要とする。指導者教育に必要なことは、感動する心や創作行為の感性の働きに対して受け止める力を身につける描画力ことである。

参考文献：

- 園田正治著『子どもの絵と脳のはたらき』黎明書房1977(一部抜粋引用)
- 平田智久、小林紀子、砂上史子編『保育内容「表現」』ミネルバ書房2010(一部抜粋引用)
- フィリップ・ワロン著『子どもの絵の心理学』加藤義信、井川真由美共訳、白水社2002
- W・ヴィオラ著『チゼックの美術教育』久保貞次郎、深田尚彦訳、黎明書房1999
- V・ローエンフェルド著『美術による人間形成』竹内 清、堀内 敏、武井勝雄共訳、黎明書房1963
- ハーバード・リード著『芸術による教育』植村鷹千代、水沢孝策訳美術出版社1979
- W・グレッツィンゲル著『なぐり描きの発達過程』、黎明書房1970
- ローダ・ケログ著『児童画の発達過程』なぐり描きからビクチュアへ、深田尚英訳、黎明書房1971
- 林 林男編著、『表現・幼児造形』〈理論編〉保育出版社2008
- 野村和子、中谷孝子編著、『幼児の造形』－造形活動による子どもの育ち－ 保育出版社2009
- 霜田静志著『児童画の心理と教育』金子書房1975
- 伊藤廉著『デッサンのすすめ』美術出版社1968
- 文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』チャイルド本社、2008

注記

実技実践資料は、(その2)に引き続き、主に基礎デッサンに係る内容とした。また幼児、児童に対して弊害としての『ぬり絵』は作例資料としての価値や必要性も無いので、掲載していない。(了)

Summary

This paper is the sequel of the research of human education which is required for the educators who understand both the developmental stages of childhood and infants' painting education, especially the education of free painting as the creative education used to foster infants' sensibility. The figurativeness education, particularly painting education in early childhood has been misunderstood by some of the educators. I launched into a subject about understanding the meaning of painting in the developmental stages of childhood, as well as the support and the guidance. The mechanism of brain and the education for nurturing children's brain through painting learnt from "Painting of Children and Function of Brain" written by Masaharu Sonoda is the theoretic foundation for my research.

After lectures on painting by adults and painting by children, I realized the difference among the reaction of adults, of high school students and of students. There is a hint of guidance on the magnitude of the difference among the young learning people. In this paper, the impressions of my lectures written by the high school students has been summarized as research content. The understanding of developmental stages and the way to read infants' painting in the teaching of painting in early childhood is explored in this paper. Meanwhile, the way to train the competency and the thinking of supporting declared by the MEST is stated. The learning method for understanding how to train the competency for reading the infants' painting is explained by the examples. Furthermore, "not to teach the infant to paint" and "the disadvantage of *Nurie*" written in students' impressions must be taken notice of.

There is a tendency of increasing anxiety from the experience of education summarized from kindergarten teachers' questions and impressions covered in the first issue of this annual report. There is a gap between reality and learning on the desk. Although I recommended to return to the starting line, living environment and growth condition of each infant should be considered by the kindergarten teacher in the daily nursery. However, education is not a problem of today, but also of tomorrow. To the children, this is a problem should be solved also in the future. I hope the understanding by the high school students is not limited in the one on the desk, and will be used in the practice.

Lasting from the second issue, the practice of *Dessin* centered on the theme of cylinder has been studied as subject of practical education. The competency of reading children's painting by the adults (educators) is necessary for the understanding of development and the willingness to creative education. All that required in the teacher education is to grasp such a kind of ability of painting caused by the touched soul and the sensible action through creativeness.